

## 令和2年度 第2回社会教育委員会議 会議録（要旨）

- 1 日時：令和2年8月3日（月）10:00～11:30
- 2 場所：北九州市立生涯学習総合センター 3階ホール
- 3 出席者 委員 野依議長他 11名  
事務局 市民文化スポーツ局長 久保山他 6名
- 4 議題、議事の概要
  - (1) 市民文化スポーツ局長あいさつ
  - (2) 委員紹介と北九州市事務局職員紹介
  - (3) 議長あいさつ
  - (4) 次期北九州市生涯学習推進計画（素案）について
- 5 主な質疑応答、意見等  
議題（4）次期北九州市生涯学習推進計画（素案）について

事務局：（素案について説明）

副議長：次期生涯学習推進計画検討会議で議論された内容について補足説明する。

大きく3点あり、1点目は情報、プログラム、学びの場の提供について、デジタル化、いわゆるインターネットやスマホ、SNS、オンラインを進めること。

2点目は、生涯学習の参加者の固定化、いわゆる関心のない人にどのようにして関心を持たせるかということについて、市民のニーズを捉え様々な工夫等で着実にやっていく方向が必要であるということ。

3点目が、生涯学習の整理として、乳幼児、青年期、成人期、高齢期という世代ステージごとに分けたこと。乳幼児期の重要性を再確認して、1番目に乳幼児期の生涯学習を設定した。

委員：この資料3の第4章の61ページの文言、「妊娠中から」という言葉はとても響いた。乳幼児のもっと前、こここのところをどうまた家庭教育で伝えていくかというのは、これから、とてもいい文言だと思う。

委員：60ページの上から「そのため、市民が、心豊かな人生を送れるよう、乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期といった」と書かれている。その次の61ページの一番下から2行目、「妊娠中から乳児期、幼児期、学童期へと切れ目のない学習機会を」のここを少し統一して、最初のところの「乳幼児期」のあとに「学童期」を加えてはどうかと。そして、61ページのほうは、「乳児期、幼児期」と分けてあるところを「乳幼児期」にして、この「学童期」というところで、61ページと文章を統一してみるとスマートかなと感じた。

事務局：今ご指摘のあった部分について、事務局のほうで検討させていただく。

議長：60、61 ページの「乳幼児期の生涯学習」とか、61 ページの子育て中の生涯学習というところで、「親子」とか「親」という言い方と、「保護者」という言い方が混同しているので、「保護者」に統一されたらいいのではないかと思います。

委員：学校教育に携わっているが、このコロナ禍において一番思ったことは、ICT がやはり現場にとっても必要だということである。現在、生涯学習の参加者が固定化していることから、みんなが知り合うとか、分かり合うとか、つながるといったツールの1つとして、ICT を上手に活用することは、生涯学習の中でも、学校教育の中でも、とても大切だと痛感している。

委員：生涯学習の参加者の固定化の問題で、乳幼児期に市民センターを中心とした社会教育で学ぶことが、ゆくゆくは子ども会の発展につながるであろうし、様々な地域や人との横のつながりが、その後の子どもの生き方に随分影響してくるのではないかと思います。妊婦、小さな乳幼児を抱える母親、働きながら子育てをしている家族に寄り添うことが、これからの社会教育の発展に対して重要だと思う。そのキーステーションになるのが市民センターではないかと思います。

事務局：ご指摘のあったように、「めざす生涯学習社会」では、次世代育成型の生涯学習社会を目指している。社会教育から地域づくり全体へと広げていき、次世代育成をしていく。

子どもたちが、地域への愛着や誇りを持って、その先も地域づくり等に参加するような社会づくりにつなげていくための家庭教育の部分も、大切になってくると思うので、関係部局とも連携しながらしっかり進めていきたいと考えている。

委員：今回初めて胎児期からの学習を取り上げていただいたことを、本当にうれしく思う。「愛着形成」「アタッチメント」は、小さい時に形成されてこそ、初めて培われるものなので、その大切さを社会教育の中できちんと文章化したことに感謝を申し上げたい。

60 ページの「乳幼児期の生涯学習」の中で、「乳幼児期は親子の愛情」という様に、親子だけに限定しているところに若干の違和感を覚える。子どもの生活、成育背景の中には、どうしても親子だけではなく、祖父母や施設ということがあるので、「親子等の成育者」等、少し幅を広げたほうが、全ての子どもたちを網羅できるのではないかと思います。

事務局：乳幼児期も含め、子どもの育成は、保護者はもちろん、それに関わる祖父母、地域の方々全てで行うという視点が大事だと思うので、ご指摘のように表現については事務局のほうで検討させていただく。

委員：素案全体は数字がかなり入っていて、比較しやすいので非常に分かりやすい。せっかく目標数値を作っているのも、その根拠や目標を大事にしてほしい。

乳幼児教育からずっとやってきた結果、社会人となって逆境に耐えられるとか、孤立しない共助社会をいかに実現していくかということが、教育の一番の目標ではないかと思う。何のためにやるか、結果としてどういうことを目指すのかというところの大事さというのを、特にお願ひしておきたい。

議長：数値目標の根拠の説明を事務局に願います。

事務局：各3つの柱ごとに指標を設定している。例えば施策1の56ページの「生涯学習の情報が取得できている人の割合」というのは、現状では37.2%で、これを少なくとも2人に1人を目指そうということで設定している。それぞれの指標は、過去の分の推移を基に、それに対して過去4年の最高値に近いものまでは目指していきたいと考えている。

生涯学習関連施設の利用者数については、人口減少や施設のマネジメントなどから、利用者数は減っている状況にあるが、現状を維持できるような取り組みをしていきたいと考えて設定している。

柱2の70ページの「ボランティア登録人数」や「地域活動に参加した人の割合」等は、市の行政評価で指標を設定しているので、それに合わせている。それぞれの計画、例えば教育プランであれば教育プランで設定されている計画と整合性を取った形で、指標の目標についても設定している。

それからもう1つは、人づくりというところになるかと思うので、体験活動等を通じて、進めていくということでやっていきたいと考えている。

委員：資料4の69ページの下から3行目に「施設の利用状況や老朽化の状況を見ながら、施設の適正配置、複合化、多機能化など、より効率的な施設運営を目指し」と書いてある。生涯学習を活発にするためには、今まで自由に使っていた施設が複合化されて使いづらくなったとか、廃止されてしまったなど、そういうことがないように、やっていただきたい。特に、今年の4月から施設の使用料なども値上げされ、市の政策で市民の活動を制約することがないようにやっていただきたい。

次に、この資料4の65ページ「③-3 男女共同参画社会の形成の推進」について、今回、レディスやはた、レディスもじの施設の機能を廃止して、生涯学習センターに看板の掛け替えを進めているが、レディスとしての機能がなくなったからといってこの分野が弱まることないように、しっかりやっていただきたい。

また64ページに紹介されている「人権市民講座」に、共生社会やヘイトスピーチ等の問題も取り入れてほしい。

事務局：「公共施設マネジメント実行計画」の中で、市民の利用する施設は効率的な運用していくと示されているが、生涯学習を推進する立場では、生涯学習をしていく人たちが使いやすい施設になるように、いろいろな工夫、取り組みをしていきたいと考えている。

レディスが生涯学習センターになるということは、特定の男女共同参画が目的の施設から、誰もが使いやすい施設に移行するという考え方であるので、現在の利用者にも、引き続き使っていただきやすくするためにやっていく。

また「人権市民講座」については、LGBT、ヘイトスピーチ、ハラスメント等、広い分野があるため、そういった現代的課題に対応した形で、人権学習、人権教育といったところを推進していきたいと考えている。

委員：生涯学習関連施設についての意見だが、やはり限られた施設というのは限度があると思う。今回のコロナで施設が使えなくて、多くの人たちが喪失感を持つ

ている。しかし、その一方で、1人で学習したり、公共施設は利用しないけれども、新しい方法を見つけている人がいて、ネットやいろいろな所でつながったりしている。これからは既存の施設を利用するプラス、やはり市民一人一人が考えていく方向にもっていくように啓発していかないといけない。

また、これから自然災害が増えてくると思うので、センターの講座においても、趣味とかボランティア活動の場所だけではなく、防災の面でも進めてほしい。

70ページのモニタリングの「地域防災の新たな担い手を育成した人数」に関して、何か対策があるのか、どういう形なのか教えていただきたい。育成することも大事だが、モニタリングを含めてどのように活用していくかということが、これからの課題だと思うので具体案があれば、教えてほしい。

事務局：「みんな de Bousai まちづくり人材育成事業」を危機管理室で行っている。大学と協働して、大学で防災科目を新設して、大学生を対象に防災教育を行っている。地域で主体的に、実際の災害のときに活動できるような知識を身に付け、地域の防災の担い手になる人材を育成するというものである。一例ではあるが、こういったところから、地域防災の新たな担い手を育成していきたいと考えている。

議長：この会議のテーマは、大きく2つになったと思う。このコロナにより、社会教育、生涯学習に関する様々な問題点が明らかになり、やはり人のつながりが大事であるということ。そのために「いつでも、どこでも、誰でも」という社会教育の基本理念の実施について、いろいろな形で進めていく必要があるのではないかとということ。

もう一つは、委員が「乳幼児期の生涯学習」にとっても関心を示され、今回の素案に文言を入れたことを御賛同いただいたことだと思う。

委員：生涯学習の事業というのは、どこかで全ての市民の生活に網がかかっているにもかかわらず、認知されにくいところがある、課題ではないかと思う。

入りやすいキャッチフレーズを募集するとか、分かりやすい言葉で市民を巻き込むという手法を少し考えていかれたら、もっとみんなに行き渡るような内容になるのではないかと思う。今後はそのようなものが必要なのではないかと思う。

議長：貴重なご意見をいただいたと思う。

事務局：今後のスケジュールについて説明する。本日の次期計画の素案に関するご議論を踏まえ、修正を加えた上で、教育委員会や市議会への報告を経て、10月から約1カ月間、市民向けのパブリックコメントを実施する予定である。そしてパブコメにおける意見など踏まえ、さらに必要な修正などを加えた上で、12月頃に計画の最終案について、委員の皆様にお困りしたいと考えている。その後、所定の手続き、報告を経て、令和3年度から次期計画をスタートするというスケジュールで考えている。

(特に意見なし)